



地域づくり人養成講座

地域づくり人 求められるものは

特定非営利活動法人まちづくり支援えひめ代表理事 前田 眞



- 地域づくり人に求められる人材については、主に次の3つのタイプの人物像が想定される。
- (1) リーダーシップを発揮できる人
 - (2) 実際にプロジェクトを推進する能力のある人
 - (3) 中間支援の能力を持つ人

(1) リーダーシップを発揮できる人

誰かが「やろうー」と言い出さない限り、子供の遊びも地域のお祭りも始まらない。良く誤解されるのが「会議がスムーズに進むような司会や進行の上手な人」がリーダーなのでは？ということ。けれどもそれは「管理者」の仕事であり、リーダーの役割ではありません。それでは「リーダー」には何が必要なのか？それはチームに火をつける強い想いである。「これをやりたい！」「実現したい！」というその



石畳における現地研修

想いを絶えず持ち続けること、みんなをその気にさせる「強い方向性」がチームの強力なエンジンになる。

もうひとつ、「リーダー」に忘れてはならない必要なことがある。それは「実行力」。強い想いを抱いているだけ、想いを語っているだけではただの夢物語に終わってしまう。実現するための青写真を描くことだって重要なリーダーの役割である。リーダーの役割を列挙すると次のとおりである。

① チームをつくる

グループやチームはよそから与えられるものではなくて、リーダーがつくりあげるものである。

② メンバーからアイデアを引き出す

半分以上の余白を残した戦略には、メンバーも自由に絵が描きやすいものであり、そういったチームでの協働作業を楽しむくらいの余裕がリーダーには欲しいものである。

③ チームを盛り上げる

チームを鼓舞するためにまず必要ことは、内容を変えずに表現を変えて、夢やビジョンを何度もメンバーに語りかけることである。

(2) 実際にプロジェクトを推進する能力のある人

それぞれの目標に対して専門的な知識や目標に対する実行力のある人が求められる。一

般的にまちづくりの中心になる人はこのタイプの人が多い。

(3) 中間支援の能力を持つ人

中間支援組織とは、市民活動団体と行政とを仲介する立場にあつて、一方で市民活動団体に対して、市民活動相互の連携や情報交換、情報やスキル、ノウハウの提供などの機能を持つている。他方で行政に対しては、市民活動全体の立場を踏まえた提言を行うなどの機能がある。

ア・ネットワーク機能

中間支援組織の基本的な役割として、特定テーマや関連する情報の共有化や情報交換、課題解決への相互支援などがあり、個別の活動団体等のネットワーク化を図る役割がある。

イ・コーディネート機能

ネットワーク機能を活かして、市民活動団体と行政、多様な主体間のつなぎ役などを実践しつつ、合意形成やマネジメントなどの協働のスキルを提供する。

ウ・提言機能

協働の事業スキームの組み立て、協働にふさわしい業務委託方式のあり方、協働事業を促進する条例や指針などの仕組みづくりなどの提言機能が求められる。

エ・資金支援機能

資金提供機能については、協働事業のあら



しまなみにおけるオフ会の様子



大黒座におけるワークショップ道研修の様子

ゆるなステップでの参画、特に事前の意思決定と事後の評価における透明で民主的なプロセスを実現して行くことが求められる。

従来の地域社会において、行政は、誘導・調整など大きな役割を担ってきた。しかし、地域ニーズの多様化・増大により協働の必要性が叫ばれる中で、行政や個々の活動を行っている団体がそれぞれ誘導・調整にあたることは限界があることが明確になってきており、ここに中間支援組織の意義と役割が存在する。

中間支援機能というと、不足しているモノ（情報・知識・能力等）を補完・代行したり、課題などによるこう着状態に解答を与えたりするものというイメージが一般的にあり、これらの機能を担う人材には、「私に任せて」的な発想と行動よりも、当事者そのものに一歩足を踏み出させる言動が求められる。

そして、こうした能力・姿勢を必要とするスタッフを育てていくには、従来の市民活動の「経験」と大学など知識や情報が集積される場所における「専門知識」だけでは限界があり、双方を相互に関係付けることによって生まれる、新しい「能力」の形成が重要となる。

今回の「地域づくり人養成講座」はこれらの能力を持つ人材養成を目的にしていたが、どの程度まで達成できたかは、講座卒業生の皆さんのこれからによるものであり、それぞれの分野での活躍に期待するとともに祈念したい。